

アフターコロナのキャリアを考える

「機械」や「AI」に代替されない

新たな価値を創造できる力とは？



多摩美術大学
学生部キャリアセンター
西田 修 課長

あらゆる仕事で求められる 「ゼロからイチを生み出す力」

新型コロナウイルス感染拡大によって、私たちが暮らす社会の姿は大きく変わった。当然ながら、ビジネスの世界も例外ではなく、航空業界、飲食業界など、厳しい状況のなか、雇用形態やビジネスモデル全体を見直すことが求められている職種もある。この不透明な時代を生き抜くために若者たちは、大学で何を学び、どのような力を身につけるべきなのだろうか。多摩美術大学学生部キャリアセンターの西田修課長はこう語る。

「コロナ禍がいつまで続くかわからない状況のなか、不安を抱える高校生や保護者の方も多いでしょう。しかし、そもそもコロナ禍以前からAI時代の到来によって、社会は大きく変わろうとしていました。この明日が見えない不確実な時代だからこそ、求められる力があります。それは、『ゼロからイチを生み出す力』、そして『本質を見抜く力』です。これらは、多摩美術大学がずっと以前から教育の柱とし、実際にそうした力を身につけた卒業生をあらゆる業界に輩出してきた実績があります」

「ゼロからイチを～」というフレーズは、ビジネス誌などでもよく見かけるものだ。確かに、「指示待ち」ではなく、「主体的」に行動できる人材が求められるのは、誰もが認めるところだろう。しかし、将来の就職を考えるときに、美術大学という選択肢が浮かぶ人は少ないかもしれない。と

AI時代、Withコロナ時代が到来し、急速に社会変革が進む今、機械やAIで代替されない新たな価値を創造する人材の育成が求められている。そんななか、トヨタ自動車、ソニー、資生堂など人気企業に数多くの卒業生を輩出し続ける多摩美術大学の教育に注目が集まっている。長年に渡り、創造的人材育成を牽引してきた同大学に求められる力について聞いた。

りあえず公務員、とりあえず技術職、とりあえず資格……。入試相談の現場で、こんな声を聞くことも珍しくない。西田課長は、今こそここに「美術大学であらゆる業界で役立つ力を鍛える」という選択肢を加えてほしいと強調する。

コロナ禍でも人気企業への 堅調な就職実績を維持

「美大を卒業して、アーティストになれば、美術科の教員になるか、もしくは就職できないのではないかと……。そんなイメージをお持ちの高校の先生が今でもたくさんいらっしゃることに驚かされることがあります。これは、現状とは大きくかけ離れています。以前から本学の卒業生は、トヨタ自動車、ソニー、パナソニック、電通、博報堂、任天堂、ヤフー、資生堂など各業界の人気企業で活躍しています。その安定した実績もあり、自動車、家電、放送、ゲームなどの業界大手200以上が、例年学内で企業説明会を開催しています。言わば、企業側から多摩美の学生がほしいと言われている状況なのです。

職種の面でも、いわゆるクリエイティブ職（教職を含む）で活躍している学生が例年、就職希望者の7割を占めます。ここからも学ぶ領域とキャリアが地続きとなっていることがわかるでしょう」

そんな多摩美術大学も2020年度卒業生の就職活動は、コロナ禍の厳しい状況のなかで進められた。しかし、前述した航空業界、飲食業界などに進む学生が少ないこともあり、就職実績に大きな変化はなかったという。さらに注目すべきは、IT業界、コンテンツ業界、コンサルティング業界など、新しい分野で活躍する卒業生が増えている点だろう。

「最近、アクセントチュアのような最先端のITを扱うコンサルティング企業が多摩美の学生を積極的に採用している動向に私たちも注目しています。こうした企業が現場に求めるのは、既存のサービスをどう使うかという発想ではなく、顧客の課題を解決するためにゼロから新たなサービスを発想するような力です。多摩美の学生は、在学中からさまざまな課題やプロジェクトを通して、社会の本質的な課題を発見し、それを解決するための具体的な

あらゆる業界で評価されている多摩美の教育



PICK UP!

他大学との共同プロジェクト



方法を模索・検証・提案する訓練を積み重ねてきました。そこで鍛えられたのが、まさに冒頭で申し上げた『ゼロからイチを生み出す力』であり、『本質を見抜く力』だと思うのです」

他大学や企業と連携した学外プロジェクトを実施

ここで西田課長が多摩美術大学の卒業生の強みだと指摘する「ゼロからイチを生み出す力」について、改めて考えてみよう。確かに、美大で絵画や彫刻、デザインの作品づくりに取り組めば、何かをつくり出す力は鍛えられるだろう。しかし、これは「プレゼン資料をつくるのが上手になる」というレベルの話ではない。「絵を描く」という課題ひとつとっても、対象をよく見て、構成を考えて、表現を模索する……というプロセスのなかで、「観察力」「思考力」「構成力」「表現力」などを鍛える要素が詰まっているという。これらは、まさに企業における新たな商品やサービスの企画提案で求められる力そのものだといってもいいだろう。

「こうした力を鍛え、発信する実践の場として、多摩美では毎年、他大学や企業、自治体との共同プロジェクトを多数行っています。PBL（課題解決型学習）やアクティブ・ラーニング形式の学びが注目される昨今ですが、これこそ多摩美がずっと取り組んできた学びのスタイルです。特徴的な例では、早稲田大学や昭和大学との共同プロジェクトがあります。現場では、多摩美の学生が得意とする課題の本質を深く観察する力、机上の空論ではない具体的な解決策を提示する力が高く評価されています」

大学入学共通テストだけで受験できる入学選抜を実施

普段なかなか知る機会がない多摩美術大学の学びの現場が見えてきた。そうすると気になるのは入口である。美大の入

「EDGE-NEXT 人材育成のための共創エコシステムの形成」は、文部科学省が推進する次世代アントレプレナー育成事業の採択プログラム。主幹校である早稲田大学を中心に、東京理科大学、滋賀医科大学、山形大学がチームを形成するこの取り組みに、多摩美術大学のプロダクトデザイン専攻も2017年から2年間は協力校として、さらに2020年からは協働機関として参画。起業家育成をテーマに、先進的な連携講座を展開している。現場では、美大生ならではの思考方法や視点が他大学の学生に多くの“気づき”を与えているという。

試といえば、デッサンなどの実技試験が課されるのが通例だ。それが、大きなハードルでもある。しかし、多摩美術大学の一部学科では、数年前から実技試験を課さない入試を実施しているという。

「2022年度入学選抜では、前年に引き続き『共通テストⅡ方式*』として、デザイン系を中心に6学科・専攻・コースで、実技試験なしの選抜を実施します。これは、『表現がしたい』『ものづくりがしたい』という情熱と主体性があり、高い論理性や思考力のある受験生を受け入れるのが目的です。絵を描く技術はアウトプットの一つ例でしかありません。『ゼロからイチを生み出す力』を鍛えれば、さまざまな手法で新しいものをつくり出すことができます。こうした考え方で学生を募集した結果、入学後に表現力を身につけ、才能を開花させていった事例が多数出ています」

西田課長が前述している通り、「ゼロからイチを生み出す力」は、Webサイトやプロダクトのデザインだけに活用されるものではない。各種サービスの開発や組織づくり、ビジネスモデルの構築など、あらゆる現場で応用できる。リモートワークの環境づくりや医療現場の課題解決など、時代が求める分野でも求められるスキルだ。アフターコロナでも、社会に新しい価値を提供する商品やサービスを生み出す人材が現れると感じさせる魅力があるから、多摩美術大学に企業からの引き合いが続くのだろう。

CHECK!

45名の業界別卒業生インタビューで進路選択を支援するキャリアブック

「AI時代を勝ち残る進路選択」

家電・ゲーム・メディアなど各業界で活躍する卒業生の声や産官学協働プロジェクトについて、詳しく紹介。Webでも公開している。
<https://a.tamabi.ac.jp/ai/>



最新情報は受験生サイトで

多摩美術大学は、誰もが潜在的に持つ表現者としての可能性を育むために独自の入学選抜を実施してきた。入試改革後もこれまでの選抜方法が受け継がれる。

一般選抜

【1】一般方式【2】共通テストI方式【3】共通テストII方式の3方式で実施する。
【1】は実技+学科試験（国語／英語）、【2】は実技+大学入学共通テストのスコアで合否を判定する。ユニークなのが【3】の共通テストII方式。美大ながら実技試験を課さず大学入学共通テストのスコアのみで合否を判定する。

▶2021年度 共通テスト単独方式実施学科

※2022年度より共通テストII方式に名称変更
プロダクトデザイン専攻、環境デザイン学科（建築・インテリア・ランドスケープ（都市環境））、情報デザインコース、芸術学科、統合デザイン学科、劇場美術デザインコース

【2】【3】で採用する共通テストの科目は、学科・専攻・コースにより異なる。また、【1】【2】【3】共通で英語の外部資格・検定試験の成績は使用しない。

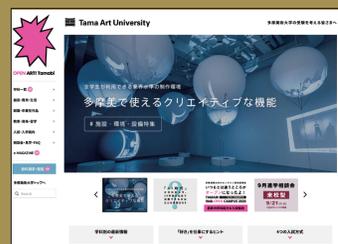
総合型選抜・学校推薦型選抜

2020年度までの推薦入学試験の自己推薦方式を「総合型選抜」として、公募制推薦方式を「学校推薦型選抜」として実施する。各学科の独自性を反映した選抜内容となっており、それぞれ実技やアイデア、プランニング力を重視する。面接試験、小論文の課題を課す学科もある。

最新情報は受験生サイトで



<https://a.tamabi.ac.jp/>



●お問い合わせ

多摩美術大学 総合企画部
〒158-8558
東京都世田谷区上野毛3-15-34
TEL：03-3702-1168